

# 博慈会 老研一口伝言 病気の行方

# 未病ケアで健やかに



## かわいてきた

前回に引き続き、お口の臭いが気になる山本佐知子さん(仮名・62歳)の診察を続けました。口臭の直接の原因は歯周病であることがわかったので、「食事の時にしみますか?」と聞きますと、「しみはしないのですが、唾が出ないので途中でお茶を飲まないのご飯が入っていかないのです」と言います。そこで、ピンとくるモノがあり「目がゴロゴロしませんか?」と聞き直すと、「そうなのです。目薬をさしております。最近パソコンを覚えていますので、画面が悪いのでしょうか。ドライアイなのですね」とすらすらと答えられました。「先生は内科でいらっしゃるの、目のことは言いませんでした」と、こちらの能力を<sup>そんたく</sup>忖度してか、訴えなかったのです。

## 同時多発テロ病?

「どうもパソコンだけのせいではないようですね」と言うと、「もう歳ですから、いっぺんにガタがきたのですね」山本さんはそうつぶやきました。実はそうではありません。身体がカサカサになる“シェーグレン症候群”という病気の疑いが出てきたのです。

この病気は唾液や涙、汗、膣などの分泌を司る腺組織といわれるところの病気です。1930年頃、スウェーデンの眼科医のシェーグレン先生によって発見されました。それで、この病名がつけました。それまでは、やはり加齢による病気かなと思われて片づけられていたのです。

確かに病気はひとつの臓器が悪くなると、その臓器の名前にちなんだ病名がつけます。すなわち、病名は臓器に対応すると考えられていたのです。しかし、シェーグレン症候群の場合、歯周病、唾液の減少、目の乾燥、それに膝の関節痛など多彩な症状

が、一見無関係と思われる箇所ではほぼ同時に起こります。まるで身体に同時多発テロが起こっているようでもあります。

## 自己免疫病という言葉

病気の原因は感染や生活習慣、癌だけではありません。多彩です。自己免疫病とは、自分の身体を守ってくれる防御システムが、逆に自分の細胞を異物と勘違いして、攻撃をかけてきている状態をいいます。体内で内乱が起こっているといってもいいでしょう。シェーグレン症候群はその内乱が体中の分泌組織(唾液腺、涙腺など)を攻撃してきている状態といえます。比較的、中年女性に多く発症し、日本では約50万人の患者さんがいらっしゃいます。

## お医者さんの上手なかかり方

病気はひょんな時に発見され、その後の展開も変わっていきます。お医者さんにかかるコツは、山本さんのように多少びったりとした言葉でなくても、自分の言葉でまず訴えてみることです。

お医者さんは応用力で修正したりして、全体の身体の状態を察知してくれます。八卦見ではないので訴えないとわかりません。診療科の違いがあっても忖度しなくて大丈夫です。

## さて、治療

シェーグレン症候群は、専用の薬もありますが、実はなかなか治りにくい病気です。それで難病にも指定されていますが、あまり重症化しないのも特徴です。

山本さんには、対症療法として、唾液の減少にはガムを噛むなどして、少しでも唾液腺を刺激し、目の乾燥には根気よく目薬や人工涙液などで、涙を補っていくことになりました。



### ●著者プロフィール

福生 吉裕 (ふくお よしひろ)  
一般財団法人博慈会 博慈会記念総合病院附属 老人病研究所所長  
日本医科大学連携教授  
『未病息災』(源草社) など著書多数